

清流だより

令和元年 9月24日(火)
北西中学校だより 発行 松田昌樹



学校教育目標
「心豊かで かしこく
たくましい生徒の育成」

I はじめに

本年4月18日(木)に全国の中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」には、本校の3年生85名が参加しました。本調査は12回目の実施となりますが、これまでと同様の「国語」・「数学」に加え、今回初めて英語が調査対象となりました。また、これまでは「国語」「数学」については、「知識や技能」を問うA問題と、「活用力」を問うB問題が別々に実施されていましたが、今回の調査ではこれらを一体的に問うこととなり、英語については「読む」「聞く」「書く」に加え、「話すこと」の調査も実施されました。

この度、本校の分析結果がまとまりましたのでその概要をお知らせし、ホームページにも掲載いたします。また、調査結果の分析をもとに課題点や改善すべき点等について職員間で共通理解を図り、すべての生徒に確かな学力をはぐくむことができるよう、引き続き授業改善に取り組んでまいります。

II 本校の状況(平均正答率でみた本校の状況)

	国語	数学	英語
全国平均との比較	○	○	○
県平均との比較	○	○	○

*○は上回っている、△は下回っている

本校は、国語・数学・英語のすべての教科において、**県平均・全国平均を上回る結果でした。また、2年時に行われた県学力把握調査の結果と比較しても、国・数・英ともにさらなる向上が見られています。**

III 教科ごとの状況

【国語】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(10問中5問)

- ・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができる。
- ・話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができる。
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができる。
- ・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる。
- ・語の一部を省いた表現について、話や文章の中で適切な活用の仕方を理解することができる。

△正答率が全国・県平均を下回った設問(10問中0問)

- ・なし

○全国・県平均を上回っているが正答率の低かった設問

- ・封筒の書き方を理解して書く

◇今後の取組

- ・「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる」「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができる」については授業において自分の考えを明確にし、説得力のある文章として書く指導を今後も継続して行っていく。
- ・「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができる」については、目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を身につけることが必要となる。そのために、新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりすることを授業の中で意識して計画的に取り組む。

学校の様々な教育活動をとおして、葉書や封筒の書き方など伝統的な言語文化についても、教科の枠を超えて繰り返し指導をしていきます。

【数学】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(16問中10問)

- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
- ・簡単な場合について、確率を求めることができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。
- ・問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきか判断することができる。
- ・与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる。
- ・総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる。
- ・資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。
- ・事柄が成り立つ理由を説明することができる。

△正答率が全国・県平均を下回った設問(16問中1問)

- ・反例の意味を理解している

○全国・県平均を上回っているが正答率の低かった設問

- ・グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
(考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。)

◇今後の取組

- ・方程式の計算や確率、図形の性質等これまでに繰り返し復習に取り組んできた单元については正答率も高かったので、今後も基本の計算問題等の復習に継続的に取り組んでいく。
- ・日常生活や社会の事象を考察する場面では、資料やグラフなどを適切に読み取り、資料の傾向を捉え、批判的に考察し判断することが求められる。今後、授業や課題等をとおして判断の理由を数学的に説明する力を高めるよう取り組んでいく。
- ・図形の性質を考察する場面において、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなど証明を振り返って統合的・発展的に考察する学習をとおして、筋道を立てて考えたり、数学的な結果を事象に即して解釈することを意識して計画的に取り組む。

【英語】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(21問中11問)

- ・語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる。
- ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。
- ・日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる。
- ・まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる。
- ・まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる。
- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。
- ・文の中で適切に接続詞を用いることができる。
- ・一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。
- ・与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
- ・与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。

△正答率が全国・県平均を下回った設問(21問中3問)

- ・与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
(「3人称単数現在時制の肯定文を書く」設問は2問出題されましたが、うち1問は全国・県平均を5%以上上回り、1問は5%以上下回っています。)
- ・聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。
- ・一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる。

○全国・県平均と同様に正答率の低かった設問

- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

【英語・「話すこと」の調査について】

*今回初めて行われた英語の調査では「話すこと」の調査も5問実施されましたが、全国的には施設や器具等の関係で実施できない学校もあったため、参考値としてのみ集計されています。

○「話すこと」の調査結果概要

- ・今回初めて実施された「話すこと」調査の全国正答率は10%~45%であり、本校の正答率も10%~57%程度で、全国と同様に「基本的な表現を理解して、正しく応答すること」や「即興でやりとりすること」には大きな課題が見られました。

◇今後の取組

- ・「読むこと」の正答率が特に高かったことから、これまで授業や宿題に取り入れてきた長文読解練習の成果が現れたと思われる。今後も英文を読むことに慣れるよう、引き続き読解問題等への取り組みを継続していく。
- ・「書くこと」については、問題によって大幅に正答率が異なっているので、生徒が苦手としている文法項目や会話の場面などを分析し、ひとつずつ英文のルールを確認していく。また、授業内で行っている小テストの内容を工夫し、書く問題に対する生徒の対応力を高めていく。
- ・「話すこと」については全体的に大きな課題が見られるため、日常的に英語を話す機会を増やすことに加え、場面を設定し、その場にあった表現方法を使えるよう指導方法を工夫していく。

【生徒質問紙調査】

全国学力・学習状況調査では、各教科の学力調査と同時に、学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する質問紙調査(アンケート調査)も行われています。本年度は69問の設問がありましたが、本校3年生の特徴的な部分を以下に示してあります。

○生活習慣・自分自身について

- ・本校生徒の朝食摂取率は90.6%で全国・県平均を7%程上回り、「家の人と学校での出来事について話す」と答えた生徒も64.7%で全国や県平均より約15%多い。
- ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「家の人と学校での出来事について話す」と回答した生徒の割合は、全・県平均より10~15%高い。

○学校生活について

- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「先生は分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合は、全国平均を20%以上、県平均を10%以上上回っている。
- ・「学校へ行くのは楽しい」と答えた生徒の割合は、全国を10%以上、県を5%以上上回っている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている生徒は全国・県平均を5~10%上回っている。

○学校での学習について

- ・国語の授業で「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」「うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している」と答えた生徒はいずれも80%を超えており、全国平均を10%以上上回っている。
- ・「数学の勉強は大切だと思う」「英語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒はいずれも90%を超えており、全国平均を10%以上上回っている。また、「数学の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強はよく分かる」と回答した生徒は80%を超えており、全国平均を10%~20%程度上回っている。

○家庭学習・読書習慣について

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は61%と全国を10%、県を5%上回っているが、1日に2時間以上学習する生徒の割合は全国・県より少ない。
- ・「読書が好き」と回答した生徒は47%を超え、全国・県平均より7~8%高い。

○その他

- ・「回答時間が十分であったか」との問いに対して、英語では「(やや)足りなかった」と回答した生徒の割合が高い。

本校の3年生は、学力調査において国・数・英ともに県・全国平均を上回る状況であることや、生活習慣が安定していて、家の人と学校での出来事について話す生徒の割合が高く、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が高いこと等がわかりました。

また、「いじめはどんな理由があってもいけない」・「学校が楽しい」と感じている生徒の割合なども県や国と比較して高く、教員と生徒との人間関係についても全体的に良好であることなどもわかりました。

学習面につきましては、「自分で計画を立てて勉強をしている」・「各教科の学習は大切である」・「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒の割合が高い一方で、平日に2時間以上家庭学習を行っている生徒の割合は、国や県の平均と比較すると少ないことなど、様々なことが明らかになりました。

本校では、本年度の校内研究において「学びの自立を目指して ~深い学びにつながる生徒同士の対話を意識した授業の在り方~」を研究主題に掲げて、日々の授業をよりよいものにするため学校体制で研究に取り組んでいます。

今回の調査結果を全教職員で共有し、日々の授業の更なる改善に結びつけていこうと考えています。また、家庭での学習時間の定着、各教科の宿題や課題提示の方法、課題への取り組みの工夫や改善など、自主的に学習に向かう環境づくりについては、ご家庭と連携した取組を継続していきたいと考えています。

今後も一層のご理解とご協力をお願いいたします。